

【トラック1・初めての登園〜あきほ先生との出会い〜】

「いらっしゃいませ」

「大人の男性向け保育園・パプビ〜ノへ よこそ」

「失礼ですが、初めての登園の方でしょうか？」

「紹介状をお持ちですか？」

「——はい、確認いたしました」

「それでは当保育園の説明をさせていただきます」

「私は本日、お客様の担当をさせていただきます、安村(やすむら) 秋穂(あきほ)と申します」

「これから、よろしくお願いします」

「我が保育園・パプビ〜ノでは、社会人である男性のみがお客様となります」

「まだ紹介制でして、先程お客様がお渡ししてくださった紹介状がありませんと会員になることは不可能です」

「会員になるか、ならないかは、どうぞ今回のお試し体験を経験なさった後に判断をしてくださって構いません」

「もし、お気に召さなかったのならば、今回限りでも良いのです」

「すでにお聞きになられているかと思いますが、私達はお客様の様に身も心も疲れている方達に、
赤ちゃんに戻っていただきまして、甘えていただきながら癒して差し上げたいのです」

「どうぞ気兼ねなく、私に存分に甘えてくださいね」

「それでは、お部屋にご案内いたします」

「——さあ、どうぞ」

「こちらの個室が、お客様の遊戯室になります」

「完全防音となっておりますので、どんな声を出しても、他の人に聞かれることはありませんので、ご安心ください」

「遊戯室に入られましたら、私はお客様のことを『ボクちゃん』とお呼びいたしまして、

赤ちゃん扱いをさせていただきます」

「お客様はどうぞお気軽に「あきほ先生」とお呼びください」

【トラック2・あきほ先生にローションマッサージで肉体を良いコ良いコされる】

「さあ、ボクちゃん♪」

「お部屋に入ったら、お洋服を脱ぎ脱ぎしましょうね」

「このお部屋に入ったらあ、こんな窮屈な服は全部脱がなきゃダメなんでちゅよお」

「脱いだお洋服は、あきほ先生がちゃあんとクローゼットに入れてあげまぢゅからね」

「——んふふっ♪」

「スポンポンのままでは風邪を引いちゃいまぢゅから、このヨダレかけとオムツに着替えまぢゅ」

「うふふっ♪ ボクちゃんには特別にい、あきほ先生手作りの黄色のヒヨコさんのヨダレかけを付けてあげまぢゅね」

「次はヒヨコさん柄のオムツでちゅよ」

「さあ、あきほ先生が穿かせてあげまぢゅから、まずは右のあんよを軽く上げてくだちゅい」

「——よしよし、良いコでちゅねえ♪」

「次は左のあんよでちゅよお」

「よいしょと」

「——うん、これで良し♪」

「ん〜〜、でもボクちゃんのあんよを触って気付いたんでちゅけど、随分と体がカチコチでちゅねえ」

「あきほ先生が揉みほぐしてあげまぢゅから、お部屋の真ん中にあるベッドに、仰向けに寝てくれまぢゅか？」

「——おやおやあ、ベッドを見て、不思議そうなお顔をしていまぢゅねえ」

「あっ、言うのを忘れていまちたが、このベッドはローションベッドマッドなんでちゅよお」

「くふっ♪」

「ローションを使用するのにい、適したベッドということでちゅ♪」

「と言うことでえ、これからあきほ先生がたあつぷりのローションでボクちゃんの体を癒してあげまぢゅね♪」

「ローションは冷たくないでちゅから、安心して良いでちゅよお」

「天然成分で出来ていまぢゅので、お肌に優しくて、とおっても馴染みやすいんでちゅ」

「ほおら、こんなに透明でトロトロオっとしているんでちゅよ」

「まずはあ、耳からモミモミしていきまぢゅねえ」

「あきほ先生がこれからするマッサージは、リンパの流れを良くするんでぢゅよ」

「耳から首、鎖骨を通して脇の下まで、手のひらで優しく撫でるようにするマッサージなんでぢゅ」

「それじゃあ、はじめまぢゅね」

「——左右の耳をモミモミミ、耳の穴までグチュグチュグチュウ」

「ふふっ♪ ローションの音を間近で聞くと、思わず体がムジウムジウしちゃいまぢゅね♪」

「で・も、体の力は抜いてくださぢゅいよ？」

「——すくんでしまった首も、お手で優しくナデナデナデ」

「——アラアラ、首がこおんなにカチコチに固まっていたら、肩凝りが酷かったでしょう？」

「手首から脇の下の部分に触れていくと、腕の方もカチカチなのが分かりまぢゅよ」

「あきほ先生のマッサージのやり方は、覚えておくと良いでぢゅ」

「んふっ♪ お風呂で体を洗った後にオイルでマッサージをすると、体がスツキリしまぢゅからね♪」

「お胸の部分は谷間から脇の下を、優しく撫でるのがコツでぢゅよ」

「お腹は、おへその下から、左右の手で胸の下まで撫で上げるんでぢゅ」

「また、おへその下から太ももの付け根までを撫でると、お腹の調子が良くなるんでぢゅよ」

「リンパ節を刺激すると、体がポカポカしてきまぢゅね？」

「体がほぐれて、リンパの流れが良くなってきた証拠でぢゅ」

「まあまあ、足首から太ももの付け根まで撫でると、こっちも疲れているのが手のひら越しに伝わってきまぢゅ」

「いつも、こんなになるまで働いて、本当にご苦労様でぢゅ」

「良いコのアんよは、い〜っぱい良いコ良いコしてあげまぢゅ♪」

「最後に太ももの内側から付け根までを触るので、あんよを開いてくれまぢゅか？」

「——アラアラあ、まあまあ」

「オムツがテントみたいに盛り上がっていまぢゅよ？」

「あきほ先生ったら いけまぢゅえんねえ」

「ボクちゃんが、いっちゃん凝っている部分を忘れていまぢゅた♪」

【トラック3・あきほ先生に良いコ良いコされながらの授乳+ローション手コキプレイ】

「おちんちんちゃんが、かわいそうでちゅから、キツキツ オムツを脱ぎ脱ぎしまちようねえ」

「まあ♪ オムツを下したら、元気な暴れん棒さんがピョンツと飛び出てきまちた！」

「それに おむつに少し染みができていまちゅねえ」

「おちんちんちゃんがカチカチのままだと体に悪いでちゅから、
中に溜まったモノをいっっぱい出して、スッキリしまちようね♪」

「体がポカポカになってきたからか、ボクちゃん『はあはあっ……！』していまちゅねえ」

「もしかして、喉が渇きまちたか？」

「それじゃああきほ先生のおっぱいを飲みまちゅか？」

「くふっ♪」

「実はあ、あきほ先生は母乳が出るんでちゅよ♪」

「——ほおら、見てくだちゃい」

「こんなにおっぱいが風船みたいにパンパンになって、乳首もムッチリしているでちよう？」

「ちょっと揉んだだけで、んっ……、んう、あ…母乳がピュツピュツと出るんでちゅう」

「おっぱいが吸いやすいように、ボクちゃんを横に抱っこしてあげまちゅね」

「ん、はあ…あ…よいしょっ……と」

「さあ、大きくお口をあ〜んって開けてくだちゃい♪」

「——はあ、あ…んうっ……あんっ♪」

「そんなに慌てておっぱいを頬張らなくても、逃げたりしましえんからね」

「ふふっ♪ 可愛い、ボクちゃん」

「…ああ……一生懸命にあきほ先生のおっぱいを、ちゅーっちゅーっ吸って、良いコでちゅねえ」

「…んうっ……ん、あっ…」

「あきほ先生のミルクは、甘くて美味ちいでちゅか？」

「たっくさんミルクを飲んで、大きくなるんでちゅよお」

「あきほ先生はあ、おちんちんちゃんから、白いおしっこを絞り出してあげまちゅね♪」

「暴れん棒さんにローションをとろとろ〜っとかけて、片手でニギニギニギ、ムチュムチュムチュウ〜」

「ボクちゃんのおちんちんちゃん、スッゴクあちちでちゅねえ……♪」

「リズムをつけながら、暴れん棒さんをしごいてあげまちゅね」

「暴れん棒さんの根本からエラが張った部分までえ、シコシコシコ、ニユルニユルニユルウ〜〜♪」

「良いコ良いコ♪」

「裏筋の部分を、親指のお腹の部分でちょっと強めに擦り上げるのが、ボクちゃんは好きみたいでちゅねえ」

「こんなふうにい、グイグイグイ〜〜っと少し強めにと、暴れん棒さんがニョキニョキって伸びまちたよお」

「それにい…おちんちんちゃんの先っぽの穴から、トピュットピュツて透明なおつゆが飛び出ちてきまちゅ」

「黒いお毛けの下に隠れているタマタマはどうかなあ？」

「んふっ♪ キュンツと引き締まって、コリコリでちゅねえ」

「あきほ先生のヌルヌルのお手てで、タマタマをモミモミされるのは気持ち良いでちゅかあ？」

「あらっ♪ 暴れん棒さんがブルンツと大きく揺れて、返事をしてくれまちたねえ」

「素直な良いコでちゅ♪」

「んふっ…ふ、うう…んっ…あ、はあ…っ…はっ激しくおっぱいを吸われると、

もう片方のおっぱいは何もしていないのに、母乳がジワジワ溢れてきまちゅう」

「…ああ…っ……あっ…こっちのおっぱいは、ボクちゃんのお手てでモミモミしてくだちい」

「…あ、はあ…はあんっ！」

「乳首ごと手のひらでギュツと握られたら…はあ…赤ちゃんミルクがドピュッドピュツて出ちやいまちゅよお」

「…はあ、はあ……ボクちゃんのミルクも、絞り出さないといけまちえんねえ…あ、はあ…あ、はあ…んっ……」

「おちんちんちゃんが亀さんの首のようにグインツと成長をして、あきほ先生、嬉しいでちゅ♪」

「…ふ、うん……亀さんの先っぽを、手のひらで良いコ良いコしてあげまちゅね」

「良いコ良いコ♪ こんなに立派に成長してくれるなんて、本当に良いコでちゅねえ」

「亀さんのエラの部分もしっかりと形を成してくれまちたから、あきほ先生、触りやすいでちゅう」

「ほおら、こんなふう指でエラの部分をクリクリするとお、悦んでブルブルって震えてくれるんでちゅよ♪」

「暴れん棒さん、熱くてドクドクしてて、もうすぐ限界が近そうでちゅね」

「いつでも良いんでちゅよ」

「体に溜まっているモノを、遠慮なく全て出し切ってくださいね♪」

「あきほ先生がお手伝いをしてあげまちゅ！」

「たっくさんおちんぼミルクを出せるように、暴れん棒さんをい〜っぱい手でシコシコしまちゅね♪」

「シコシコシコオ、おちんぼミルク、い〜っぱい、たあっぷり出てきてくだちゃい♪」

「ニルニルニルウ〜、あきほ先生におちんぼミルクが出るところを見せてくだちゃい♪」

「…んふ、んっ……あんっ♪」

「可愛い亀さんのお口から、おちんぼミルクがドビュッと飛び出てきまちたあ！」

「白いミルクが勢いよくビューツビューツ出てきまちゅねえ」

「随分と体に溜めていたんでちゅね」

「おちんぼミルクが出ている間も、暴れん棒さんをシコシコしてあげまちゅから、残さず出すんでちゅよ♪」

「ギュツギュツギュウ、ニルニルニルウ〜」

「おちんぼミルク、出てこい出てこい♪」

「白いおちっこ、いっぱいいっぱい、出ちてくだちゃい♪」

「アラアラ、あきほ先生のおっぱいにまで、おちんぼミルクが飛んできまちたあ」

「どれどれえ」

「——あ……チュ、ヂュツ…ヂュルツ…チュツ、んうっ…チュ…ヂュツ……」

「——ふふっ♪」

「ボクちゃんのおちんぼミルク、甘くて美味しいでちゅ♪」

「ボクちゃんの上半身にも、おちんぼミルクが降り注ぎまちたねえ」

「暴れん棒さんをしごいても、もうそんなにおちんぼミルクは出まちえんけど、まだ萎えまちえんね」

「体がまだ満足できていないようでちゅし、次のプレイに移りまちょうか」

【トラック4・あきほ先生に良いコ良いコされながらのシックスナイン】

「ボクちゃんはある、どうやって赤ちゃんを作るのか、知っていまちゅかあ？」

「んふっ♪」

「あきほ先生がこれから、じいっくりたあつぷりと教えてあげまぢゅね♪」

「まずはあ、キスからはじめまぢゅよ」

「すこおしだけ、口を開いてくだちゅいね」

「んう…ちゅっ……はあ…、んあ…あ…ちゅっ、ちゅっ…ちゅ、ちゅば…」

「ああ…レロっ…チュルッ……んっ、んふ…ふ…ちゅる、ちゅるるっ……ちゅばっ…」

「……っぶはあ」

「ボクちゃんのお口の中、さっき飲んだあきほ先生の母乳の味がちまぢゅねえ」

「んふふっ♪ 白いおちっこを出した後だからか、ちょっとぼ〜っとしていまちゅね」

「ぼ〜っとしているボクちゃんも、とおっても可愛いでちゅ♪」

「頭をナデナデしながらあ、ボクちゃんの顔にいっぱいキスの雨を降らせまぢゅ！」

「ん〜んっ、ちゅっちゅっちゅ〜〜ちゅっ♪あ…可愛いトコ顔にい、ん〜っちゅ♪」

「ちゅっちゅっ…はあ、ちゅっちゅ、ちゅっちゅっ、ちゅっ♪…はあ…はあ……」

「それじゃあお次は、ボクちゃんを寝かせまぢゅね」

「そうしたらあ……エイッ♪」

「——うふふっ♪」

「こうやってボクちゃんの顔をまたぐような体勢をすると、あきほ先生のオマンコが丸見えでちょう？」

「んふ…ちょっと恥ずかしいでちゅけど、ボクちゃんの為ならばあきほ先生は我慢しまぢゅ！」

「——んふっ…あは…んっ……あきほ先生のオマンコ、ちゃあんと見えていまちゅかあ？」

「ここをパカッと左右に引っ張ると、オマンコの中が見えるでちょう？」

「……はあ…あきほ先生のクリトリス……ん〜、クリちゃんって呼んだ方が可愛いでちゅね」

「さっきボクちゃんにおっぱいをチュ〜チュ〜吸われながら、モミモミされたおかげで、

クリちゃんがピンッと勃っちゃいまちたあ♪」

「それに、オマンコの穴からもトロトロと蜜が溢れ出てきちゃっていまちゅう」

「赤ちゃんを作るにはあ、このトロトロのオマンコの穴に、
ボクちゃんのおちんちんちゃんを挿れなくちゃいけないんでちゅよ」

「女の人を悦ばせるにはあ、クリちゃんをさっきの乳首みたいに、ペロペロ・チュウチュウするんでちゅよお」

「——ん……あんっ♪ ボクちゃんの舌にペロペロされると、気持ち良いでちゅう！」
「舌のザラザラの部分でクリちゃんを舐め回されると、…あっ…あきほ先生の腰がビクビクしちゃいまちゅう」
「ん、はあ……ペロペロ舐めるのが上手でちゅねえ」
「百点満点をあげちゃいまちゅ！」

「…ん、はあんっ！ 乳首を吸うようにクリちゃんを吸われると、あきほ先生のオマタがビリビリしまちゅう！」
「…うん、気持ち良い！」
「もっともっと、チュウチュウ吸ってくだちゃあい！」

「ん、ああ、あんっ、あ…ああつ……はあつはあ……あつ…！」

「でっでも あきほ先生ばかり気持ち良くなっちゃダメでちゅねえ…はあつはあ……」
「おちんちんちゃんが寂しそうにしまちゅから、あきほ先生のお口で良い口良い口してさしあげまちょう」

「——ん…あ〜っん、んっ…じゅっ、じゅるっ、じゅる、じゅるるっ、んふ、あ…ん…」

「……んっ、ボクちゃんのおちんぼミルクが、まだ中に残っているみたいでちゅね」
「あきほ先生が吸い取ってあげまちゅ」

「あ〜っん、ん…んっ…じゅるっじゅるるっ、じゅるっ、ん〜んっ、じゅるっじゅる、んぢゅるるるっ〜ん、ぢゅぱっ…」

「——ぶはあ〜っ…」

「んふ…♪ ごちそうさまでちた♪」
「ねっとり濃厚なおちんぼミルク、美味しかったでちゅよ♪」

「——アラア、おかちいでちゅねえ」

「あきほ先生は残ったおちんぼミルクを、吸い取ったつもりだったんでちゅけどお、
また亀さんの首が元気にニョキニョキって伸びてきまちはあ」

「あきほ先生のヌルヌルしている、あったかあいお口の中が気に入ったようでちゅね」

「それじゃあ、あきほ先生のお口で、たっくさん良い口良い口してあげまちゅね♪」

「——あ〜っん、んう…ジュルジュルジュルルルウ〜〜、ジュルルッ、ん〜んっ…」

「ジュッポジュッポッジュッポ、ジュッポジュッポッ…」

「んふっ♪ すぼめた唇で暴れん棒さんをしこると、お口の中でプルプルって喜んでくれまちゅね♪」

「亀さんの頭は、舌で良い口良い口してあげまちゅね♪」

「はあ〜あ…レ〜ロレ〜ロレロレロレ〜ロ、ちゅるちゅる、ぢゅるっぢゅ、ちゅぱっ…」

「はあ…あ…ペロペロペロオ、ちゅっ♪ …はあ…っ…♪」

「あらあらあ、透明のおちっこがどんどん溢れ出てきちゃいまちゅねえ」

「んふふっ♪ ボクちゃんとおまたの舐め合いっこをしていくうちに、あきほ先生の体もポカポカしてきちゃいまちた」

「オマタがムジウムジュして、刺激が欲しくなってきたんでちゅ」

「ボクちゃんの立派に成長したおちんちんちゃんを、あきほ先生のナカに挿れても良いでちゅか？」

【トラック5・あきほ先生のおマンコで良いコ良いコされながらの子作り】

「ボクちゃんはそのままの体勢で良いでちゅからね」

「あきほ先生が体の向きを変えて、ボクちゃんと正面から向き合う体勢になりまぢゅから」

「——うん、ん…はあんっ……♪」

「ボクちゃんのおちんちんちゃんを、おマンコに擦り付けるだけでも、スゴク気持ち良いでちゅ♪」

「二人分の体液でヌルヌルになっているから、滑りが良いでちゅねえ」

「あ…それじゃあボクちゃんのおちんちんちゃんを、あきほ先生のナカに挿れちゃいまぢゅね」

「子作りをはじめまぢゅ♪」

「…ん…あ、はうんっ！ ああっ、あ……ボクちゃんのたくましいおちんちんちゃんが、

膣肉をグイグイ割り広げながら入ってきまぢゅう！」

「…あっ、熱くて硬くて、挿れただけでも、あきほ先生、イッちゃいそうになりまぢゅう！」

「あっ、はあ……はあ、はあっ……！」

「あっあきほ先生のナカは、気持ち良いでちゅかあ？」

「あっ！ ボクちゃんのおちんちんちゃんが気持ち良過ぎて、ついつい力が入って締め付けてしまいまぢゅう」

「あ…あっ……はあ…あっ……ホラ、足を開くと、よく見えるでぢゅう？」

「ボクちゃんのおちんちんちゃんが大好きで、ギュウギュウに締めつけてしまう、あきほ先生のおマンコが」

「あ…んっ……！ あっ……」

「でも先生なんでちゅから、ちゃぁんとおちんちんちゃんを、根本まで挿れないといけまぢゅんね」

「んっ……はあっはあっはあっ、はあ……んう、はあ……っ、ふううう～～、んっ、くうんっ！ んっ…あっ…はあ……」

「いっ一気に根元まで入りまぢたよお」

「おちんちんちゃんの前つぼが、赤ちゃんを作る部屋にグイグイと入り込んできそうになっいまぢゅう」

「…はあ、あっ…下から子宮を押し上げられると、あきほ先生、たまんなく気持ち良くなってちまいまぢゅ！」

「あっ、はあはあっ…おちんちんちゃんがこんなに立派に成長してくれて、あきほ先生、嬉しいでちゅよ♪」

「あ…♪ ご褒美として、あきほ先生のおマンコでいっっぱい良いコ良いコしてあげまぢゅ！」

「んう…腰を浮かして、亀さんの頭までズルウ～～ッと引き抜いて……んっ…

……くふんっ！ あっ…はあはあっ……」

「そしたら、今度はズンツと腰を下して…はあっは…」

「ひゃんっ！ くっ…これを何度も繰り返す、ピストン良いコ良いコでちゅよ♪」

「あっ…ん、あっ…あっ…………はあっはあ…オマンコで良いコ良いコ♪」

「あきほ先生を気持ち良くさせる、可愛いおちんちんちゃんを良いコ良いコ♪」

「ああんっ♪」

「あきほ先生のナカで、グイーンとまた大きくなったでちゅう」

「…あ、あっ…………あっ、あっ…………あ…」

「プルンプルンツと激しく揺れるあきほ先生のおっぱいから、またミルクが滲み出ちゃってきまちたあ…(はあはあ…)」

「ボクちゃんの両方のお手てで、絞ってくだちゃい」

「ほおら、お手てでギュッギュッギュウ〜」

「あはっ♪」

「おっぱいミルクがビューツビューツ出て、ボクちゃんの体に降り注ぎまちたねえ」

「もったいないので、ミルクシャワーを、お口を開けて飲んでくだちゃい♪」

「ボクちゃんのお口めがけて、おっぱいミルクをビューツビューツ♪」

「ふふっ♪」

「上手に飲めまちたね♪」

「——んっ、ふ…………おりこうさんのボクちゃんには、舌も吐息も混ざり合うディープキスをしてあげまちゅ」

「口を軽く開いて、舌を出してくだちゃい」

「あ〜ん、んっ…………、ちゅっちゅぱっ、あ…へ…………」

じゅぶじゅ、ん…ふっ、ちゅぱっちゅ、レ〜口レ口、くちゅう…………ちゅ、

っぷはあ…はあ…んう〜ん…ちゅっちゅぱっ…はあはあ…」

「ボクちゃんはお、あきほ先生のこと、好きでちゅか？」

「——あきほ先生はボクちゃんのこと、だーい好きでちゅよ♪」

「ふふっ♪ 恥ずかしがるボクちゃんも可愛いでちゅけど、

あきほ先生はボクちゃんのお口から『好き』って言葉が聞きたいでちゅねえ」

「言ってくれないなら、このまま腰は動かさないでちゅ」

「——今はおちんちんちゃんが根本までビッチリ入っていまちゅけど、このままじゃあ物足りないでしよう？」

「さあ、刺激が欲しかったら、『好き』って言ってくだちゃい」

「——ふふっ♪」

「あきほ先生もボクちゃんのこと、好きでちゅよ」

「好き、好き、好き、だーい好きでちゅ♪」

「好きって言いながら、腰を上下に動かちまちゅよ」

「——ん、ん…んう…ん…あきほ先生はボクちゃんのことを、好きで好きでたまらないんでちゅ」

「んっ…ボクちゃん、可愛い♪ボクちゃん、大好き♪ 好き、好き、好きい♪」

「あんっ♪ やっぱ『好き』って言い合いながら愛し合うと、より一層気持ち良いでちゅね」

「あ…はあっ…ボクちゃんのおちんぼミルクが、また出ちようでちゅかあ？」

「はあ…良いでちゅよ、遠慮せずにあきほ先生のナカに出してくだちゃい」

「ホラ、おちんちんちゃんを根元までオマンコで飲み込んで、グ〜ルグ〜ルと腰を回してあげまちゅと、全体に刺激がクルでしよう？」

「あっ…赤ちゃんの部屋の中に、ボクちゃんのおちんぼミルクをたあっぷり注いでくだちゃい♪」

「あ、んう、ん……あはっ♪」

「キタキタキタア、ボクちゃんのおちんぼミルクが、あきほ先生の赤ちゃん部屋に、ドピューッドピューッて注ぎ込まれてまちゅう！」

「あっ、あっ、あ…はああんっ！」

「熱いおちんぼミルクが、子宮に溜まっていきまちゅう！」

「一滴も残らず、おちんぼミルクをあきほ先生のナカに飲ませてくだちゃい！」

「あ、あっ、く…あ…くっ…くうん、んっ！ あっあっあーっ！」

「あ…あ、あ……しっ、子宮にナカ出しされて、あきほ先生もイッちやいまちたあ……♪」

「…あ…あっ…体のビクビクッが止まらないでちゅう…はあはあ…あ…おちんぼミルクが欲しくて、腰がガクガク動いてちまいまちゅう…あ、あ…」

「ナカがギウギウ引き締まって、ダメッ……、あ…イクのが止まらないんでちゅうっ……！」

「あっ、はあ…はあはあ…ちよっただけ、ボクちゃんの上で休ませてくだちゃあい あ…はあはあ…」

「んふふっ♪」

「ボクちゃんの胸に耳を当てると、ドクンドクンって興奮している鼓動が伝わってきまぢゅね♪」

「…はあはあ……ん…はあ…はあ……」

「——さあ、次はボクちゃんが腰を振る番でぢゅよ」

「あきほ先生と体勢を入れ替えてえ、ボクちゃんが上になって腰を動かすんでぢゅ」

「まずは体勢を入れ替えまぢゅね」

「——ん、んっ…ん…あんっ♪」

「二人の体が繋がったまま動くと、気持ち良い刺激がオマンコから伝わってきまぢたあ」

「はあはあ…あきほ先生は足を広げてえ、準備はオッケーでぢゅよ♪」

「最初はゆっくりで良いから、腰を前後に振ってみてくだちゃい」

「——ん、ふっ…んう…ん…んう……あはあんっ♪ そう、上手でぢゅよお」

「パンッパンッパンッて音が鳴るぐらいに、激しく腰を打ち付けるたびに、
オマンコからブチュッブチュッて愛液が溢れ出てきまぢゅ」

「ん…んう…赤ちゃんの部屋に、ガンガン暴れん棒さんが当たってきて、…はあっ…お腹が奥から熱くなるでぢゅよお
…はあっ、全身がしびれるぐらいに、気持ち良いでぢゅ！」

「あ、ああ…こんなに気持ち良い子作りをされたら、きっと生まれてくる赤ちゃんは可愛いんでぢゅね♪」

「あっ…ふふっ♪」

「でも今は目の前のボクちゃんを、一番に可愛がらなきゃでぢゅね♪」

「んう、良いコ良いコ♪」

「奥までおちんちんちゃんを突っ込んだまま、ぎゅ〜とあきほ先生を抱きしめてくだちゃい」

「あ、あ、ん…んう、んっ…あ、あっ…はあ、あっあ、あっあっ…ああっ！」

「ボクちゃんに抱き締められながら、イッちゃいそうでぢゅ！」

「ボクちゃんも、気持ち良い波が、腰のあたりに溜まってきまぢたかあ？」

「あ…はあはっ…おちんちんちゃんを全部あきほ先生の体の中に挿れながら、ボクちゃんもイってくだちゃい！」

「あ…遠慮なんかしないで、あきほ先生にボクちゃんの欲望をぶちまけてくだちゃい！」

「全部受け止めてあげまぢゅからあ！」

「あっ、あ…あく、くっ、んっ……ん、んほおお〜とおおお〜！」

「ボクちゃんの本気ピストンで、あきほ先生、イッちゃいます！」

「んっ、はああんっ！ 気持ち良い波が来る、ああっー、もうダメえ！ イクイクっ♪んっ」

「…んああああっ！ ……あっ…あ、あ…」

「…はあはあ…グチュグチュに熟れたオマンコに、あっちっちのおちんぼミルクが注がれて、
お腹がいっぱいになっていく♪はうはう、あ…はう……」

「ボクちゃん、立派に子作りを覚えまちたねえ…(はあ……)」

「——おりこうさんのボクちゃんの頭を、良いコ良いコしてあげまちゅ♪」

「良いコ良いコ♪ あきほ先生の体の方が、気持ち良く癒されてしまいまちた♪」

【トラック6・あきほ先生のおっぱいで良いコ良いコ】

「ふう……、ようやく落ち着いてきまちたから、オマンコからおちんちんを抜きまぢゅね」

「——ん、あ…あ…、ズリュ〜〜ツと……んんっ」

「あー…オマンコからおちんぼミルクがこぼれちゃいまちたあ」

「はあ…もったいないでぢゅねえ…」

「ん？」

「アラアラ、おちんちんちゃんは、まだ満足していないようでぢゅね」

「最後の残り汁が、まだおちんちんの中にあるみたいでぢゅ」

「最後までやり切れないのは、保母さん失格でぢゅ！」

「なのでえ、あきほ先生のこのおっぱいで、残り汁を搾り取ってあげまぢゅね♪」

「ちゃあんと全部出し切らないと、体に悪いでぢゅから♪」

「あきほ先生のおっぱいは母乳まみれで、ベトベトになっていまぢゅから、
おちんちんを谷間にはさんでも、気持ち良いでぢゅよお♪」

「ん…あ…ほおら、ぱっふん♪」

「ギュツギュツギユウ〜〜、モミモミモミイ〜〜」

「ニユルニユルニユルウ〜〜」

「こうやっておっぱいを上下に動かしても、おちんちんちゃんは痛くないでちょう？」

「ん…ん…二人分の体液でベトベトのおちんちんちゃんでぢゅからあ、

おっぱいをこおんなふうにグリグリグリイ〜〜っと、右と左に別々に動かしながら擦っても気持ち良いでちょう？」

「ん、ん…んう…ん…ボクちゃんはパイずりが好きみたいでぢゅねえ」

「おっぱいを動かすたびに、おちんちんちゃんが悦んで、谷間でピクピク動いてまぢゅよお」

「あ…おっぱいでも、おちんちんちゃんを良いコ良いコ♪」

「ん…あきほ先生が与える刺激に素直に反応してくれる坊やが、可愛くて仕方ありまぢゅん！」

「おっぱいでいっぱい、しごいてあげまぢゅね♪」

「んっ…ん、んふっ♪」

「おっぱいで扱き上げるたびに、亀さんのお口からトロトロっと蜜が溢れ出てきまぢゅねえ」

「んう…ホウ、見てくだちゃい」

「暴れん棒さんの根本からあ、亀さんのくびれのところまで、おっぱいでニユルニユルニユルウ〜〜と、しごき上げると、あ…先っぽの穴がクパクパ開いて、中からおつゆがトブトブ出てくるんでぢゅよお」

「あっ…ん…最後一滴まで、搾り上げまぢゅ！」

「…んっ、んっ、ニユプニユプニユプウ〜〜」

「さあ、上手にイケるところをあきほ先生に見せてくだちゃい」

「おっぱいがパンッパンッパンッて音が鳴るぐらいに、激しくパイずりをしまぢゅよ！」

「うん…おっぱいピストンでぢゅ！」

「パンッパンッパンッ、グチュグチュグチュ！」

「さあ、さあ、さあっ！」

「あんっ♪」

「あっ…ああ……はあ……んふっ♪」

「最後にトピュ〜〜ッとおちっこを出せまちたね」

「本当にボクちゃんは良いコでぢゅね」

「ん〜〜ぢゅっ♪」

【トラック7・あきほ先生とバイバイ】

「——お疲れ様でした、お客様」

「来店していただいた時より、大分顔色が良くなりましたね」

「身も心もスッキリして、癒されたでしょうか？」

「——ふふっ♪」

「満足なさっていただけたのならば、光荣でございます」

「また来ていただけるのでしたら、できれば次も私を指名していただけると嬉しいです」

「お客様を癒す方法はまだまだございますので、ぜひまた『あきほ先生』に会いに来てくださいね♪」

【終わり】